

編集後記

Vol.13, No.2 を発刊いたします。今後は電子媒体で発刊することにし、冊子体は総説を中心に年1回とする方針で考えています。

さて2014年度の大会は、微生物生態学会、土壤微生物学会との合同大会、「環境微生物系学会合同大会2014」です。編集委員長の金原が実行委員会委員長として、浜松で開催いたします。ホームページ等に掲載する合同大会の開催目的を以下に記します。

「微生物は地球誕生後の最も早い時期に最初に生まれた生命であり、約40億年の歴史を持っています。この中の一部のグループは遊離の酸素を生成するようになり、地球上の多様な生命を育む礎を作りました。環境微生物は、地球上に生息するあらゆる生命に関係し、地球環境の保全に欠かせない役割を果たしています。また、遺伝資源の宝庫として、人間の生産活動に大きく寄与すると考えられています。環境微生物学は、地球上の微生物の役割を解明することを目的に発展してきた学問分野です。それは、生態系であったり、土壤微生物であったり、それをを用いるテクノロジーであったりします。また、微生物には菌類、微細藻類、原生動物など多彩な生き物が含まれ、これらの生息する場所は極限環境にもおよび、さらにその動態を把握するにはゲノム解析が重要なツールとなっています。このように広い裾野を包含する微生物分野の学会は既に多数に細分化されており、活発な議論と数多くの興味深い成果が得られているにも拘らず、分野間として学会間の交流が少ない事が以前から指摘されております。

日本からの微生物研究の情報発信をより強力なものにする事を目指し、まずは3つの微生物分野の学会が話し合い、別紙に記載のとおり、このたび合同開催をはじめて開催することとなりました。今後はさらに関連学会にも参画の呼びかけを継続して行なうと共に、定期的な開催も遡上に上っているところです。今回はその第1回目にあたる画期的な催しとなるはずです。この合同大会によって、関連学会との緊密な交流が形成され、研究のさらなる活性化とより活発なアウトリーチ活動が可能になると期待されます。それにより、微生物研究の重要性を広く社会にアピールする場ともなると共に、若手の育成にも繋がります。今こそ、環境微生物研究を総動員させて、次の世代へ続く持続的発展につなげましょう。その起爆剤となるよう本大会を開催します。」

今後の環境バイオテクノロジー研究の大きな発展につながるよう企画しますので、皆さんの力で大会を大いに盛り上げましょう。どうぞよろしく申し上げます。

環境バイオテクノロジー学会誌編集委員長 金原 和秀